

生活を映す壁

生活行為や生活雑貨といった住人の
「生活感＝生きている証」
を映し出す壁によって、他者との間に
新たな関係性を築くための部屋の提案。

住人の生活行為や、それを彩る生活雑貨たちは、人がその
場所で生きていることを感じさせる。
言い換えれば「生きている証」とでも言えるだろう。

現在、「生きている証」はプライバシーを守るための壁
という存在により完全に住宅内に隠されている。

近い未来、更に高齢化が進行し人と人との繋がりが薄
まっていく中で、住宅の中の「生きている証」を他者と
共有する本提案は、程よい距離感の関係性を他者との間
に作り出す、新たな部屋と壁の姿である。



従来の賃貸住宅は室同士が壁
によって完全に仕切れられ、
その部屋の要素が室外に滲み
出ることはほとんどない。



そこで、壁で仕切られた室を
湾曲した一枚の壁で切り取り、
室の中のプライバシー性
の低い生活行為や生活雑貨を
壁に映し出す。
それによりプライバシーを保
ちつつ生活感を外に共有する
部屋となる。

トイレの前のフィッティングスペース / サンプルーム。
トイレの扉には姿鏡を。

壁に囲まれた中央リビング

生活を映す壁に囲まれた中央の土間空間は全ての生活雑貨を
一望でき、必要なモノにすぐ手が届く。
個性が現れる生活雑貨、それらが一同に集まる空間は住人の
個性が最も現れる居場所となる。

生活雑貨の棚の壁

トイレットペーパーの補充や、洗剤、
シャンプー、水回りの備品を纏った壁。
備品が目に見える場所に出ていると、
足りないものがすぐわかる。

湯気が立ち込める壁

お風呂に入ると湯気が立ち込める
ガラスの壁。
生活の断片を視覚的に隣人へ共有する。

物干しの壁

服を保管するクローゼット、洗濯物を
干す物干し竿の役割を持つ壁。
春夏秋冬の衣替えにより壁面の様相が
移り変わる。

外に開かれた土間の机とプライバシー
が確保された壁内側の机。
気分により使い分けることが可能。

手元だけ見える壁

料理に使う材料や、料理中の手元が見
える壁。30cmの低い開口は、視線を
遮りつつ空間を遮らない、部屋を跨い
だモノの共有を可能にする。

壁を中央ですばめるように湾曲させる
事で、外からの視線を遮りつつ通す。
外と内を繋ぎつつ離すといった程よい
内外の関係性を作る。

廊下からこっそり隣人の今日の様子をうかがう。

湾曲した壁に囲まれた中心部の床は、
共有部の廊下と同じ素材。
外部との素材の連続が、ソトへの意識
を変える。

近畿大学大学院
粕谷しま乃・曾根大矢

